まちの元気人

豊富な観光資源を生かしたPRを！

深谷（ふかや） ひとみ さん
（象潟・鳥屋森／38歳）

今年5月から観光協会に勤め始めた深谷さん。ご主人の仕事の関係で象潟地域に住み始めたのが4年前です。この地の人と自然が大好きと永住を決め、さらに地域の人と深く関わっていきたいと観光面から市を支えてくれています。

金融関係の仕事をしていた主人、2人の子どもたちと一緒に象潟に来たのが4年前ですね。ここに住む人の温かさ、鳥海山を中心とした自然環境豊かなこの場所が大好きになりました。特に子どもたちがここから離れるのを嫌がって腰を落ち着けて住もうと決めました。

今は縁があって市の観光協会に勤めています。ちょうど旧3町の観光協会が合併を控えていて大変なときでした。ここの仕事は事務以外にも、外に出ることが多いですし、毎日電話、接客、イベントごとの会議と多種多様の内容があります。まだまだ分からないことばかりで毎日が勉強のようなものです。でも、大好きなここの観光資源を生かして、ここを訪れる多くの人に喜んでもらえるように頑張っています。

もうすぐ開催 トライアスロン大会

もうすぐ夏のビッグイベント・トライアスロン大会が行われます。今はその会議などで大忙しですね。今年は、合併記念大会としての開催になりますし、バイクコースが変わる予定なので、人の配置なども考え直さなければなりません。開催まで1カ月をきって、出場申し込みも毎日のように届いています。

県内外から何百人ものアスリートがにかほ市の大自然をコースにした大会を楽しみにし、それを支えてくれる1、500人を超えるボランティアスタッフ。私の理想とする観光の姿がこの大会に凝縮されている気がします。

たくさんの皆さんの協力を得ながら、ぜひ新市の門出を祝う大会にしたいですね。

もうすぐアスリートたちの“熱い夏”がやってきます

チビッコ美術館 じょうずにできた！

佐藤春香（はるか）ちゃん
小出保育園・6才

わたしのおとうさんは、ビールとりんご、さくらんぼがだいすきです。
いつもやさしくてあそんでくれるおとうさんです。

鈴木本気（とき）くん
小出保育園・5才

ぼくのおとうさんは、ビールとタバコがだいすきです。
かっこよくて、つよいおとうさんステキだよ。

ぐるっとふるさと 地区紹介

赤石・飛・黒川 地区

（金浦地域）

赤石1区／赤石2区／高森団地／飛／黒川

赤石地区

赤石は、赤石川河口の西へ約200（メートル）ほどの海上に、赤い大きな平石が見られたことからついた地名と伝えられています。（現在は、昭和39年の新潟地震により沈下）

寛永12年（1635年）ころ12月7日に赤石の浜に大鯨40頭あまりがうち上げられ、ひと目見ようと多くの見物人が浜に集まってきたといわれています。

現在へ引き継がれた伝統行事「あまはげ」は、小正月に子どもの行事として行われています。大人がワラで蓑（みの）を作り子ども二人に着せ、顔に墨を塗り、無病息災の使者として各家々を巡行します。また、同日に行われる「どんど焼き」は、積み重ねたワラの下に、男性と女性を象徴する石を置き一緒に焼かれます。その火にあたったり、餅を焼いて食べ、1年間の無病息災を祈ります。

あまはげ

飛地区

昔、飛地区は磯浜の広がる漁村で、田野が少なかったため、村民は海や猟にでたり塩焚きなどを生業（なりわい）としていたといわれています。

塩焚き業は、現在の飛集落から東北よりの中飛の住民が営んだものといわれ、塩焚き装置土器に使われる粘土が豊富で、広大な広葉樹林が茂っていたため、製塩には絶好の地と考えられていました。

文化財として現在、国の指定史跡にもなっている「波除（なみよけ）石垣」は、江戸時代に日本海の波浪や塩害から農地や農作物を守るため、村民たちが自分の手で一つずつ直径30（センチ）～50（センチ）の自然石を積み、内部に小石や砂利を敷き詰めた石垣で、当時の苦労がしのばれます。

飛の波除石垣

黒川地区

黒川は、八幡・館の内・宮田・林崎へ開田を進めながら現在の位置に黒川集落を作ったといわれています。

現在の集落に至る前は、黒川と飛が中山道筋にあり、村同士が入り込んでいましたが、慶長（1601年ころ）に黒川村と飛村が別れの祭式を行い、現在に至っていると考えられています。

現在も続いている「胡瓜（きゅうり）上げ」と呼ばれるこの行事は、7月14日に自分たちで刻んだ胡瓜を牛頭天王様に上げ、夕食を終えたころに家族連れで自分の畑で採れた胡瓜を持って参拝に行きます。子どもたちは先にお供えした刻んだ胡瓜を、参拝者の大人たちの手に上げ、大人たちはそれを食べてから、お参りして帰ります。

牛頭天王様